

なきむし元気くん

——岡山「きせきの小牛」ものがたり——

様

作 藤原玄洋

● 登場人物

ゲン
クロ
サブ
牧童
獣医
鯉1
鯉2
鯉3
トンボ1
トンボ2
ウミガメ
カモメ
ラジオの声

陰の声

ナレーション

● スタッフ

作 藤原玄洋

演出

音楽

美術

音響効果

照明

舞台監督

制作

資料提供 (財)気象協会

eMail:genyo2@nifty.com

© FUJIWARA Genyo 2006

第1コマ 山の牧場

―― 季節は秋。のどかな音楽。
鳥のさえずり聞こえる。

緞帳のパネル左右に開くと、牧場。

パネル下手にサイロ風の建物、上手は柵。

舞台中央奥に、笑い顔の太陽。

下手より、牧童登場。

牧童 　　はい、ほーい。こつちだぞ。

―― 小牛たち、下手より登場。

ク　　ク　　モーツ、モー。遊ぼうぜえ。

サ　　サ　　何して遊ぶ？

ク　　ク　　ゲンのやつ、おっせーな。

サ　　サ　　ほんと、あいつはノロマなんだからあ。

ク　　ク　　(下手に)ゲーン、早くこいよお。

サ　　サ　　早くこいよお。

―― ゲン、下手より、ゆっくり登場。

ゲ　　ゲ　　モーツ、モー。おはよう、みんな。

サ　　サ　　きたきた。角突きごっこやろうぜ。(ゲンに突っかかる)それぞれ、

それーっ。

ゲ　　ゲ　　やめてよお。いたいよお。

サ　　サ　　ほらほら、こいよう。(ゲンに突っかかる)それぞれ、それーっ。

牧童　　こらこら、なかよく遊べ。しっかり運動して、りっぱに育つんだぞ。

―― 牧童、下手に退場。

ク　　ク　　ゲン、遊ぼうぜ。いくぞお。(ゲンに突っかかる)それぞれ、それーっ。

サ　　サ　　それぞれ、それーっ。

ゲ　　ゲ　　やめてよお。いたいよお。

―― クロとサブ、いじめるように、ゲンに突っかかる。

サ ブ それぞれ、それーっ。
ク ロ それぞれ、それーっ。
ゲ ン やめてよお。いたいよお。やめてよお。いたいよお。

ゲ ン、たまらず下手に退場。

ク ロ ちえ、なんだよお。おもしろくないヤツだなあ。
サ ブ (ゲンの方に) 弱虫、ゲン太郎ー。泣き虫、ゲン太郎ー。
ク ロ いいよ、あんなヤツ。サブ、オレたちで遊ぼうぜ。
サ ブ よし、いくぞうお。
ク ロ サブ、いくぞお。それぞれ、それーっ。
サ ブ それぞれ、それーっ。
ク ロ それぞれ、それーっ。
サ ブ それぞれ、それーっ。

ク ロ、サブを追いかけるように、下手に退場。
遠くに、風の音。

ラジオの声、聞こえる。(1998.10.17/12:00)

ラジオの声 17日12時の気象情報をお知らせします。大型の台風十号

は、現在、鹿児島県の屋久島、西南西140キロメートル付近にあ
って、時速45キロメートルの早い速度で、勢力を保ちながら、北
東の方向に進んでいます。

中心気圧975ヘクトパスカル、最大風速30メートルです。台
風はこの後、九州に上陸し、夕方には、岡山県に再上陸する恐れが
あります。今後の台風情報に充分気をつけてください。

遠くに、風の音。
獣医に追われるように、ゲ ン、下手より登場。
ク ロとサブも、続いて登場。

獣 医 こらこら、ゲ ン。しっかり歩け。
ゲ ン 先生、いやだよ。 (下手に、逃げようとする)
獣 医 (ゲンを引き戻して) こらこら、ゲ ン。しっかり歩け。
ゲ ン 先生、いやだよ。ボク、注射なんか大きらいだよ。
獣 医 何いってんだ。病気になるのは、いやだろう？ この予防注射を

すれば、病気にならない、元気な体になるんだぞ。

ゲン だって、ボク、注射なんか大きらいだもん。

獣 医 ほらほら、みんなも集まって。

ゲン 先生、いやだよ。ボク、注射なんか大きらいだよ。

ク ロ 先生、何するの？

獣 医 これから、病気にならないように、予防注射をするから、並んで、
ならんで。

ク ロ ゲエーっ。オレ、注射なんて、やだよ。

獣 医 いいから、並んで、ならんで。(クロに)お前は、強そうだから、
お前からだ。(注射をする)

ク ロ いてー。いたいようお。(そのまま、下手に退場)

獣 医 次は、お前だ。

サ ブ 先生、やさしくお願いしますよ。

獣 医 まったく、りっぱな体をしていて、意気地のないヤツだ。(注射
をする)

サ ブ いてー。いててててて。(そのまま、下手に退場)

獣 医 今度は、お前の番だ。

ゲン 先生、本当に予防注射しないとイケないの？

獣 医 病気になってもいいの？

ゲン やだっ。

獣 医 じゃ、注射をするよ。(ゲン、少し逃げる)こらこら。じっとして
なきやダメじゃないか。じゃ、いくよ。(ゲン、少し逃げる)動く
よけいに痛いぞっ。

ゲン わかったあ。じっとしてる。

獣 医 そうだ、そのまま、じっとしてろ。(注射をする)

ゲン (大きな声で)あついたーっ。

獣 医 よしよし、おりこうさん。さあ、みんなのところに行って遊びな
さい。

----- 獣医とゲン、下手に退場。

笑い顔の太陽、泣き顔に変わり、下手に沈む。

パネル、ゆっくり閉まる。

ラジオの声、聞こえる。(1998.10.18/00:00)
風の音。

ラジオの声

18日午前0時の気象情報をお知らせします。台風十号は、四国を通過し、現在、岡山県南部の玉野市付近に上陸しました。

中心気圧980ヘクトパスカル、最大風速25メートルの勢力を保ちながら、北東方向に時速65キロメートルと速度を増しながら進んでいます。午前3時頃には日本海に抜ける見込みです。

岡山県内では台風通過にともない1時間に40ミリの激しい雨が降っているところがあります。大雨洪水警報が出ていますので、特に、河川付近の方は洪水に対する厳重な警戒をお願いします。

第2コマ 夜の牧場

パネル開く。夜。

舞台奥中央に、雲のかかった三日月。

風の音。上手より、灰色の雲が出てきて、三日月を隠し、そのまま、下に退場。

雨が降り出す。

下手より、三頭の小牛、登場。

ク ロ 雨が降ってきたぞう。

ゲ ン だめだよ。こんな夜中に、外に出ちゃ。

サ ブ いいからいいから。

ク ロ だろんこ遊びは楽しいぞっと。

サ ブ やろう、やろう。

ゲ ン だめだよ。しかられちゃうよ。夜は、お家でねてなくちゃ。

サ ブ ハハハハ……。何、赤ん坊みたいなこといってんだよ。

かまわず、二頭は、だろんこ遊びをはじめ。

ケコミから、二頭の動きにあわせて、泥のしぶき飛び交う。

ク ロ サブ、いくぞお。それぞれ、それーっ。
サ ブ おいらだって、まけないぞお。それぞれ、それーっ。
ク ロ それぞれ、それーっ。
サ ブ アッ、ハハハハ……。それぞれ、それーっ。
ク ロ 今度はゲンだ。いくぞうー。
ゲ ン やめてよお。どろんこになっちゃうよ。
サ ブ どろんこ遊びなんだから、いいの、いいの。
ク ロ アッ、ハハハハ……。それぞれ、それーっ。
ゲ ン いたいようお。やめてったらあ。
サ ブ (サブも加わる) それぞれ、それーっ。
ゲ ン やめてよお。
ク ロ それぞれ、それーっ。
サ ブ それぞれ、それーっ。

ケコミから、二頭のうごきにあわせて、泥のしぶき激しく飛び交う。
突然、雷鳴と共に、激しく降る雨。

陰の声

大変だー。吉井川が決壊したぞう。水がこつちに向かってるぞお。

二頭は、かまわずどろんこ遊び。

ク ロ それぞれ、それーっ。
サ ブ それぞれ、それーっ。
ゲ ン 楽しくなんかないよお。いたいよお。

嵐の音楽。
牧童、下手から飛び出してくる。

牧童

お前たち、夜中に何してるんだ。早く戻れ。水が来るぞー。

牧童、下手に走り戻る。
再び、雷鳴と共に、激しく降る雨。

ク ロ しょうがない。帰って寝るかあ。

雷鳴。風の音激しく。

黒い水が、上手より出てきて、三頭にかぶさる。
ケコミに黒い水があふれる。水幕、激しくゆれる。
まもなく、三頭は水の上に現れる。

サブ アブ、アブ。流されるー。

クロ 助けてくれーっ。

ゲン ワーッ……。

サブ クロー、助けて。

暴風雨の音、高まる。

サブ 助けてーっ。

クロ しっかりしろ、サブ。ゲン、大丈夫か？

ゲン だっ、大丈夫……。

サブ クロー、おいら、もうダメ……お、泳げない。

クロ がんばれ！ サブ。

サブ ダメー……。 (サブ、水幕の中に沈んでいく)

ゲン サブー。

クロ オレもダメだー。オツウオウオウオー……。 (クロ、下手の方に流

されていく)

ゲン クローー。

雷鳴。明かり、フラッシュ。

ゲン サブー……。 クローー……。

パネル、閉まる。

暴風雨の音、やや、あつて静まる。

第3コマ 夜の川

パネル開くと、ケコミ前に黒い川。水幕、ゆっくりゆれる。
激しい、流れの音。
上手から、鯉が三匹泳いでくる。

鯉 1 流されないように、がんばれ！

鯉 2 わかったわ。

鯉 1 しつかり泳げえー。

鯉 3 んーしょ、んーしょ。

鯉 1 いいぞ、その調子。

鯉 2 あ、小牛が流されてくるわ。

ゲンが、上手より流れてくる。

ゲン あー、ボク、もうダメだー。

鯉 3 小牛さん、がんばってー。

鯉 1 がんばれ、がんばれ。

ゲン あ、りがとう。ボク、がんばるよ。

鯉 2 大変、大きな木が流れてくるわー。

大木、うねるように上手より流れてくる。

鯉 1 ボクたちといっしょに、水にもぐれっー。みんな、わかったかー！

せーのお。

全員、いっせいに、水にもぐる。

大木、下手に流れていく。

鯉たち、水面に出てくる

鯉 1 みんな、大丈夫かあ。

鯉 2 大丈夫よ。

鯉 3 小牛さんが、いないぞー。

ゲン、水面に出てくる

ゲン コボ、ゴボ、ゴボー……。

鯉 2 小牛さん、しつかり、がんばって泳ぐのよ。

ゲン コボ、ゴボ、ゴボー……。

鯉 1 しつかり泳げーっ。

ゲン うん、わかったー。

大木が、ゆっくり上手から、流れてくる。

鯉 3 小牛さん、あの木につかまれえ。

ゲン あれにい？

鯉 3 そうだ、しつかりつかまれえ。

ゲン うん、わかったー。

大木が、ゆっくり上手から、流れてくる。

鯉たち、まわりから助ける。

鯉 1 そーれっ、つかまれえ。

鯉 2 小牛さん、がんばってえ。

ゲン、大木の上ののっかるように、つかまる。

ゲン ありがとう。大丈夫だよ。

暴風雨の音、やや、あつて静まる。 ゲン、大木につかまったまま、下に流れていく。

静かな音楽。

舞台奥中央に、三日月が出てくる。

ゲン、大木につかまったまま、下手に流れていく。

パネル、閉まる。

ラジオの声。(1998.10.18/03:00)

ラジオの声 岡山県を縦断した台風十号は、死者、行方不明を出す大変な

被害をもたらしました。

現在、台風十号は、金沢市の西北西、海上90キロメートル付近にあつて、中心気圧980ヘクトパスカル、最大風速25メートルの勢力を保ちながら、北東方向に時速75キロメートルの速度で進んでいます。

台風は速い速度で遠ざかっていますが、海上ではしばらく波の高い状態が続きますので、十分ご注意ください。

第4コマ 朝の川

パネル開くと、ケコミ上に水色の川。水幕、ゆっくりゆれる。
小鳥の鳴き声、聞こえる。

舞台奥中央に、笑顔の太陽出てくる。
上手から、トンボの編隊、飛んでくる。舞台の上を飛び回る。

トンボのうた

♪ おれたちや 空のパトロール隊

真っ赤な制服 ぴかぴか翼

広い空を スーイスイ

どこまで行くぞ スーイスイ

おれたちや 空のパトロール隊

トンボの編隊、下手に退場。

ややあつて、大木につかまったゲン、上手から流れてくる。

ゲン あー、とうとうひとりぼっちになっちゃったー。おなかすいたな

あ。(間) ここはどこだろう？

トンボたちの歌声、聞こえる。

下手から、トンボの編隊、飛んでくる。舞台の上を飛び回る。

トンボのうた

♪ おれたちや 空のパトロール隊

真っ赤な制服 ぴかぴか翼……

トンボ1 おい、小牛が流れてるぞ。

トンボ2 ホントだ。牛さん、がんばってえ。

トンボ1 牛くん、どこからきたの？

ゲン あー、トンボさん。ボクは、山の牧場から流されてきたの。

トンボ2 じゃ、あの台風で流れて来たの？

ゲン ここは、どこなの？

トンボ1 もうすぐ、瀬戸内海さあ。広い海に出るよ。(下手に飛び去る)

ゲン 海ってー。

トンボ2 牛さんは、山からきたから知らないんだ。

----- トンボ1、すぐに戻ってくる。

トンボ1 大変だ！ 牛さん、すぐそこに、堰せきがある。

ゲン 堰せきってー。

トンボ2 小さな滝みたいになって、流れが速くなっているんだ。

トンボ1 牛さん、しっかりつかまってるんだよ。

ゲン わかった。つかまってる。

----- 水幕、滝のようになる。

水音、大きくなる。

トンボ1 牛さん、しっかりつかまってる！

ゲン わーっ。

----- ゲンと大木、堰で大きく跳ね上げられる。

大木は、飛んでいき、ゲンは、水の中に投げ出される。

ゲン ゴボ、ゴボ、ゴボ。（おぼれそうになる）

トンボ2 しっかり！ がんばって、泳ぐんだー！

トンボ1 がんばれ、がんばれ！ もうすぐ、海だよ。

ゲン わかった。がんばるー！

トンボ1 じゃあ、がんばってね。ボクたちは、もう行かない。

ゲン うん、ありがとう。

----- トンボの編隊、上手に退場。

ゲン おなかすいちゃったなあ。海ってところにいけば、何か食べるものがあるのかなあ。

----- ゲン、下手に流れ去る。

パネル、閉まる。

ラジオの声。（1998.10.18/06:00）

ラジオの声 昨夜、岡山県を縦断した台風十号は、死者、行方不明を出す大変な被害をもたらしました。

現在、台風十号は、佐渡島の北北西100kmの海上にあって、中心気圧980ヘクトパスカル、最大風速25メートルの勢力を保ちながら、北東方向に時速75キロメートルの速度で進んでいます。台風は速い速度で遠ざかっていますが、海上ではしばらく波の高い

状態が続きます。十分ご注意ください。

波の音聞こえる。

第5コマ 大きな海

パネル開くと、ケコミ前に水色の海。波幕、ゆっくりゆれる。
舞台奥中央に、小さな島。
ゲン、上手から流れてくる。

ゲン あー、ボク、疲れちゃったよう。もう、泳げない。お母さん、ボク、もうダメだー。おなかすいちゃったしー、もう、泳げないよお。

下手より、ウミガメが登場。

ウミガメ おや、お前さん。どうして、こんなところを泳いでるんだい？

ゲン 台風で、山の牧場から、流されちゃったんだ。

ウミガメ 山の牧場から？

ゲン ウミガメさん、何か食べるものない？ ボク、おなかぺこぺこなんだー。

ウミガメ 食べるもの？ ここには、お前さんの、食べられるものはないねえ。

ゲン それに、ボク、ずっと、泳いできたから、もう、疲れちゃったー……。

ウミガメ そりゃ、大変だ。わしの背中に、つかまりなさい。

ゲン ありがとう。(ウミガメの背中につかまる)

ウミガメ しっかり、つかまるんだよ。つかまったら、しっかり泳ぐんだよ。

上手より、カモメが飛んでくる。

カモメ クー、クー、クー……。

ウミガメ おーい、カモメくん。牛くんが、大変なんだ。

カモメ クー、クー。どうしたんですか？

ウミガメ この近くに、島が見えないか？

カモメ クー、クー。島？ 島なら、黄島きしまって、小さな島が見えるよ。

ウミガメ すまないが、案内してくれないか。

カモメ よしきた。お安い、ご用。

ウミガメ 牛くん、カモメさんが、島まで案内してくれる。島に着いたら、

きっと、草が生えていて、おなかいっぱい食べられるぞ。

ゲン (弱々しく) ありがとう。ボク、がんばるよ。

ウミガメ もう、少しだからね。がんばって、泳ぐんだよ。ほら、もうす

ぐそこだ。

音楽。

カモメに先導されて、ウミガメとゲン、下手に退場。

パネル、閉まる。

第6コマ 小さな無人島の夕方

パネル開くと、ケコミ上に波幕。

ケコミ上手に、島の海岸。

カモメに先導されて、ウミガメとゲン、下手より登場。

カモメ クー、クー、クーッ……。

ウミガメ 牛くん、ついたぞ。

ゲン ありがとう。ボク、疲れちゃった。ボク寝るね。

ウミガメ おやすみ。がんばったね。ゆっくり、おやすみ。

ゲン、眠る。

音楽。

ウミガメ カモメくん、すまないが、山の牧場まで、ひとつ飛び、牛くん

のことを、知らせてくれないか。

カモメ クー、クー。ガッテン、しようち。

カモメ、上手に飛び去る。

ウミガメ 牛くん、がんばったね。さあ、ゆっくり、おやすみ。

ウミガメ、下手に退場。

音楽、高まる。

パネル、ゆっくり閉まる。

第7コマ 小さな無人島の朝

パネル開くと、前の舞台。ケコミ前と、ケコミ上に波幕。

ゲン、眠っている。

ポンポン船の音聞こえる。

獣医(声) おーい、おーい。

獣医の乗ったポンポン船、上手より登場。

獣医 おーい、おーい。

ゲン (起きあがって) あ、獣医さんの声だ。先生えー、ボクは、ここだ

よ。獣医の先生えー。

獣医 おっ、あそこにいるぞ。無事だったか。おーい、おーい。

ゲン こっちだよー。

ポンポン船、島に着く。

獣医 よかった、よかった。どこにも、ケガはないか？

ゲン うん、大丈夫。背中を、少しすりむいただけ。

獣医 よかった、よかった。お前の好きな、お弁当をもってきたぞ。

ゲン ありがとう。ボク、お腹ペコペコ。

獣医 ワツハハハハ……。食べる元気があれば、大丈夫だ。さあ、牧場に帰るぞ。乗った、のった。

ポンポン船に、ゲンと獣医、乗る。

獣医 さあ、出発だー。

汽笛の音。

エンディングの音楽。
ポンポン船、上手に退場。
再び、上手より、ケコミ前の波幕の上に登場。
下手に向かって、進む。

ナレーション

助かった小牛は、「元気君」と名付けられました。90キロメートルも流されたのに、無事帰ってきた元気くんの話は、大変な話題になり、「きせきの子牛元気」という題名で、紙芝居や絵本になりました。そして、岡山フアーマーズ・マーケット・ノースヴィレッジ農業公園で、今もたくさんのお友だちに見守られて、元気に過ごしています。

----- 島は、ゆっくり上手に沈むように去っていく。同時に、ケコミ上の波幕も沈む。

船は、下手に退場する。

ケコミ上に、再び波幕あらわれる。

小さな船が、下手から登場し、上手に去っていく。

パネル、ゆっくり閉まる。

音楽高まり、ややあって終わる。

出演者、ケコミ上・下から登場。カーテンコール。

◆背景となった実話

1998年(H10)10月17日の夜から翌朝にかけて、岡山県に上陸した台風10号は、県内各地に大きな被害(死者5名、被災家屋7900戸)をもたらしました。津山志保被害は大きく、市街地は吉井川から排水路へ逆流した泥水などで冠水し、一夜にして不安と悲しみのどん底に突き落としました。

津山の石岡牧場から吉井川の濁流にさらわれた生後6カ月の小牛が、90キロも離れた瀬戸内海の黄島で生きているのが発見されたのです。

この牧場では180頭あまりの肥育牛が飼われていましたが、屋根まで達する瞬時の増水に、牛たちを助ける余裕はありませんでした。小牛を育てるための乳牛は、綱でつながれたままおぼれてしまいました。濁流にのみ込まれた牛20数頭のうち、ただ、この小牛1頭だけが生きていたのです。

現在、この小牛は農業公園ノースヴィレッジに寄贈され「元気君」と名付けられ、大事に育てられています。

元気くんの実話は、美作女子大学により「きせきの小牛」というタイトルの紙芝居になり、神奈川県手づくり紙芝居コンクールや、岡山県芸術文化特別賞などを受賞しました。その後、同名の絵本も出版されました。

この脚本は、史実を取材して、新しく書き下ろしました。